

環境産業委員会

◆視察月日 11月19日～21日

◆視察市 滋賀県大津市

滋賀県彦根市

◆視察項目

- ・ 中心市街地活性化計画
- ・ 中心市街地活性化事業
- ・ 彦根の食創出・育成事業
- ・ 新観光振興事業

中心市街地活性化計画

大津市の中心市街地活性化計画の一期計画事業の実施状況は、全49事業のうち36事業はできたが、13事業が未着手である。官はできるだけ実施したが、民の事業がなかなか進まなかった。商店街もアーケードや一方通行の問題など意見がまとまらなかったものの、現在、再開発組合が大津駅周辺に181戸の住居系とその下に店舗を配置する建物を建設中で、区画整理事業も同時に行われていた。琵琶湖に面する公園を(株)まちづくり大津に500万円で貸し付け、年間1000万円の収益を上げていたため、残りの500万円は(株)まちづくり大津の自主財源としている。

中心市街地活性化事業

(株)まちづくり大津の今後の大きな課題は、一つは自立してどういう方向でやっていくのか、そのための財源をどうするのか。もう一つは町が

困っていないこと。後継者不足ということもないので、空き店舗を開発してテナントを入れる事業しかできないこととの説明があった。

彦根の食創出・育成事業

日本列島のほぼ中央に位置し、国宝彦根城、佐和山城がある彦根市は観光客が211万人だが、グルメは近江牛、琵琶湖の湖魚、近江米と、全て県全体のもので市特有のものがなく、その弱点挽回のため、御当地グルメをつくることを目指した。コストが安いことも条件に一般公募し、今年50万円の予算でイベント等を行うとしており、低予算で驚きである。



彦根市議場にて

新観光振興事業

ゆるキャラで知られる「ひこにゃん」は、彦根城400年祭で生まれたキャラクターである。これまでのグッズ売り上げが17億円で、マスコミを上手に利用した広報が功を奏し、頻繁に取り上げられたことがきっかけで、一躍人気者となった。その瞬間に世界で存在する1匹だけという、ディズニーのロールモデルをひこにゃんに取り入れたのは見事である。(渡辺)

建設委員会

◆視察月日 10月22日～24日

◆視察市 神奈川県大和市

埼玉県深谷市

◆視察項目

- ・ 公園の指定管理
- ・ 緑化ボランティア等育成支援事業
- ・ 緑の基本計画
- ・ 木造市営住宅

公園の指定管理

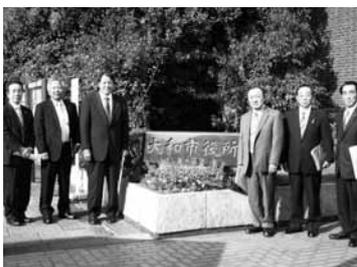
大和市は行政面積が約27万平方キロメートル、人口が23万人で、市域は南北に長く、丘陵起伏がほとんどない。市内には引地川沿いに4つの大きな公園があり、それらは総称して引地川公園とされ、今回の視察ではその一番南側にあるゆとりの森公園の指定管理を視察した。



(ゆとりの森公園)

大和市内には隣接する綾瀬市にまたがって厚木航空基地があり、同公園は騒音対策を受けられない市民への補償の意味合いも含め、基地南側のスペースを公園として整備しているものである。同公

園は平成19年度から指定管理者制度を導入したが、導入当初は管理施設が少なかったため、市の外郭団体により運営された。24年7月から民間共同事業体により運営され、市では直営した場合と比較し、年間約800万円の経費削減になると見込んでいる。



大和市役所前にて

緑の基本計画

深谷市は平成18年1月に1市3町で合併した。合併前はそれぞれの市町で独自の計画があり、統合する必要性が生じたことから、22年3月に緑の基本計画を策定した。策定に当たり、19年10月に市民アンケートを実施、庁内会議、基本計画策定委員会を経て、成案となった。

基本理念を「人と人、人と自然、緑あふれるまち ふかや」とし、それに基つき、3つの施策の柱を定め、さらに各施策の柱ごとに基本方針を設けている。計画策定後の進捗管理として、基本方針に基づき事業展開している各部署が、年1回自分たち自身で評価、進捗管理表を作成し、それが公園緑地課に提出される。(庄司)